

彼が二度愛したS

2008(平成20)年10月7日鑑賞〈角川映画試写室〉

★★★



監督＝マーセル・ランゲネッガー／出演＝ヒュー・ジャックマン／ユアン・マクレガー／ミシェル・ウィリアムズ／マギー・Q／リサ・ゲイ・ハミルトン／シャーロット・ランプリング（ショウゲート配給／2007年アメリカ映画／108分）

……ニューヨークを舞台とした会員制秘密クラブ。2人の主人公は弁護士と会計士。それだけで淫靡かつリッチな雰囲気がいっぱいだが、さて内実は……？ 金髪の美女Sをめぐるスリルとサスペンスは、いかにもおしゃれ。しかし、「Are You Free Tonight?」の誘いにはあまり乗らない方が……。

Are You Free Tonight?

エグゼクティブ層をターゲットとした、高級コールガールを自由に手にすることができる会員制秘密クラブは世界中にあるはずだが、セックスの欲望は男も女も同じ。すると、男からでも女からでも自由に“Are You Free Tonight?”と声をかけて、OKとなれば時間と場所を指定、声を掛けた方が費用持ちというシンプルな一夜限りのセックス目的の秘密クラブがあればそりゃ便利。そこで、何よりも大切なことは「秘密厳守」だが、ニューヨークに存在する超エグゼクティブ向けのそんな秘密クラブのルールは次の4つ。すなわち、①名前や職業を聞いてはいけない、②誘った方がホテルを予約する、③手荒なことは禁止、④合言葉「Are You Free Tonight?」というものだ。

そんな合理的な秘密クラブがあれば私でも利用したいものだが、雑誌の表紙を飾っているウォール街の美女（シャーロット・ランプリング）もこのクラブを利用しているようだから、こりゃ本物。もっともいくらウォール街の美女といっても、現在の美女ならいいが、大成功をおさめて超リッチになっても過去の美女はちょっと……。この映画は、そんな“Are You Free Tonight?”の挨拶から……。

弁護士 vs. 会計士

医者と弁護士は憧れの職業とされているが、他方ではスケベや変態が多いことで知られる職業……？ 弁護士の大量増員時代が始まる中、近時価値が下落気味の弁護士に比べて、会社法の大改正、会計監査の厳格化、内部統制システムの強化等の流れの中、価値が増大しているのが公認会計士。すると、会計士も弁護士とともにスケベな職業の代表に……？

この映画の冒頭に登場し、たちまち意気投合する会計士のジョナサン・マコーリー（ユアン・マクレガー）と弁護士のワイアット・ボーズ（ヒュー・ジャックマン）を見ているとつくづくそう思ってしまう。もっとも、大手会計事務所に所属していても、エリートコースではなく外回りばかり担当させられているジョナサンと、大手法律事務所の幹部として世界を飛び回っているワイアット弁護士の生活レベルは、かなり違うようだ。

この物語は、ある日ワイアットとジョナサンのケータイが入れ代わったところから大きく動き始めることになる。それは、ワイアットが外国へ出張した日、まちがってジョナサンが持っていたワイアットのケータイにかかってきた“Are You Free Tonight?”という言葉から。一方的に女の方から時刻と場所を指定されたジョナサンだったが、半信半疑しかし内心何かを期待して、指定されたホテルに出向くと……？

ファム・ファタール役は誰が？

ファム・ファタールとは、「フィルム・ノワールなどに登場して男を惑わせ、道を誤らせたり破滅させたりする運命の女。『深夜の告白』（44）のフィリス、『ローラ殺人事件』（44）のローラ、『ギルダ』（46）のギルダ、『白いドレスの女』（81）のマットらがその代表格」とされている（『映画検定 公式テキストブック』191頁参照）が、この映画におけるファム・ファタールは誰？

ミステリアスな女Sを演ずる女優はミシェル・ウィリアムズ。彼女は『ブローックバック・マウンテン』（05年）で夫イニスの同姓愛を知って悩む妻アルマ役で出演し（『シネマルーム10』262頁参照）、『痛いほどきみが好きなのに』（06年）で、主人公ウィリアムの元カノジョ役で出演し（『シネマルーム19』351頁参照）、そしてまた、『アイム・ノット・ゼア』（07年）にも出演していた女優（『シネマルーム18』255頁参照）。

しかし、私が知る限り、スクリーン上で輝くような美しさを見せつけたのは『彼が二度愛したS』がはじめて。その作品が、名無しの権兵衛の単なる「S」というのは少し残念だが、「彼から2度も愛される」のだから、きっとSは幸せ。

男が謎めいた金髪美女Sに惹かれるのは仕方ないが、往々にしてそんな「火遊び」が命取りになるもの。さてジョナサンの場合は……？

前半に早々とミステリーの仕掛けが……

日本でも弁護士の増員が予定どおり進むと、大きな弁護士事務所では弁護士同士でも名前と顔が一致しないことになる。したがって、弁護士やスタッフを入れて何百人という大事務所になると、仕立てのいいスーツを着て、バッジをつけた理知的な男性なら知らない人はその人を弁護士とまちがえてしまう可能性がある。あなたが勘のいい観客なら、マーセル・ランゲネッガー監督が前半早々にチラリチラリとみせるそんなサインに気がつくはず……。

だって、大きな弁護士事務所の中ながら、ワイアットとジョナサンが最初に出会い意気投合するのはジョナサンが1人で夜遅くまで残業している時。また昼間に仕事の報告をし、事務員にワイアットの居場所を確認しようとしたジョナサンに対して、ワイアットが素早く声を掛けてタイミングよく外に連れ出していくが、これって、ちょっと変では……？ さらにワイアットは、言葉巧みにジョナサンをテニスや夜のクラブに連れ出して親交を深めていくが、なぜワイアットはジョナサンと事務所の外ばかりで会っているの？

そう考えると、いかに上品なスーツをパリッと着こなして大きな弁護士事務所の中を闊歩していても、彼が本当の弁護士かどうかわからない……？

15カットに及ぶベッドシーンは役者冥利に……

「4つのルール」を遵守した上での、一夜限りの絶対に後腐れのない美女とのめくめくセックス。男にとってそんな最高の贅沢はない。したがって、たまたまケータイを取り違えたことによって(?) そんな体験をすることができたジョナサンが、「自由に使っているよ」というワイアットの好意に甘えて、何度もその特権を利用したのは当然。しかして、その回数はいくつ？

『彼が二度愛したS』のプロダクションノートには、「百戦錬磨のユアンもヘトヘト

のベッドシーン。」という見出しで、ユアン・マクレガーは15カットに及ぶベッドシーンに挑戦したことが紹介されている。面白いのは、そんなハードな演技に挑戦したユアンの感想で、彼は「相手役の子を紹介されてベッド・シーンを撮影したら、楽屋に戻ってコーヒーを飲んでちょっと休憩するんだ。そうしたら、またセットに戻って『どうも、ユアンです』って違う女の子に自己紹介をして服を脱ぐ。今回はその繰り返しですっかりヘトヘトになったよ。役者になってから、かなりのベッド・シーンを体験しているけど、今回はそんなのとは比較にならなかったね」と述べている。

聞くとところによると、マスターベーションの快感を覚えた猿は死ぬまでそれをくり返すらしい(?)が、一度会員制秘密クラブの快感を覚えたジョナサンが、くり返しそれを活用したのはある意味当然。もっとも、その中にはかなり年増の「ウォール街の美女」もいたようだが、あとはスクリーン上でみる限りピチピチのキャリアウーマンばかり。そりゃヘトヘトになっても役者冥利に尽きるのでは……。

この事件をどう考えれば？

ジョナサンは会員制秘密クラブのリストに登録されている女に、片っ端から電話していったわけだが、偶然現れた1人は、かつてジョナサンが帰りの地下鉄で出会い一目惚れした(?)金髪の美女。名前を明かさないルールだから彼女の名前は頭文字がSとしかわからなかったが、ジョナサンにとってSは一夜限り一度限りのセックスの対象ではなく、心から愛する女性になっていったところから、話はややこしくなってくる。

Sは当初それを拒んでいたが、夕食デートに付き合い始めると、2人はまるで恋人同士に……。こうなると男と女にとって大切なのは、セックスのつながりよりも、心のつながりだということがよくわかる。そんな、心のつながりと肉体のつながりが今夜こそ一致する。そんな大切な夜にある大変な事件が……。それは、ベッドのシーツの上に血痕を残したままSが姿を消し、ジョナサンは何者かに殴打されて気絶してしまうという事件だ。自分に嫌疑をかけてくる警察官に対して説明するべく、ジョナサンはワイアットに電話をかけ、さらに彼の法律事務所を訪れたが、さてワイアットは……？



© 2007 The Tourist Pictures, LLC. All rights reserved.

ワイアットの狙いは？ ジョナサンの苦悩は？

ここまでくれば、いくら人のいいジョナサンでも自分が騙されていたことに気付くはず。そこで問題は、ワイアットは何のためにこんな手の込んだ細工を仕組み、大芝居をうったのかということ。その狙いをここで書いてしまったのでは身も蓋もないから、それはあなた自身の目で。

ただここではっきりさせておきたいのは、これによって生まれたジョナサンの苦悩とは何かということだ。もちろんその第1は、ジョナサンはワイアットの要求に応ずべきか否かという苦悩。そして第2は、姿を消したSがそれにどのように絡んでいるのかということ。つまり、ジョナサンにとってSがどうでもいい存在ならワイアットもSを武器に使うことができないわけだが、思惑どおりSがジョナサンにとって愛する女になっているとしたら、ジョナサンはもはやワイアットの要求のままに動く存在になってしまっているわけだ。さて、そんなジョナサンの苦悩の解決方法は如何に？ その結果、ジョナサンがとった行動は？

マギー・Qの役割は？ ルッソ刑事の役割は？

中国映画通(?)の私にとっては、Sを演ずるミシェル・ウィリアムズよりも会員制秘密クラブの女ティアを演ずるマギー・Qの方がお馴染みだが、残念ながらこの映画でのマギー・Qはちょい役。

事件勃発後、ジョナサンは懸命にワイアットとSの行方を捜したが見つからない。そんな中でジョナサンがティアからワイアットの過去や犯罪歴を聞き出すことができたのはラッキー。ところが、ワイアットはこんなジョナサンの反撃を予想していたようだ。そこでワイアットが打った手は、ジョナサンの入った部屋の大爆発。これによって一連の事件は終了と思えたが、Sの失踪事件を調査していたルッソ(リサ・ゲイ・ハミルトン)という女刑事は頭がキレそうだし、しつこそう。

しかし、爆発現場に到達したルッソ刑事は、現場に残された証拠から一体どんな推理を……？

舞台はスペインへ！ 200万ドルの争奪戦は？

アラン・ドロン主演の『太陽がいっぱい』(60年)はアラン・ドロン演ずる貧乏青年トムが、親友で大富豪の息子フィリップになりすまして、金の他彼の婚約者まで奪うという面白い映画だったが、そのラストはあなたもご承知のとおり。

しかし、Sを道具として使い、まんまとジョナサンを通して200万ドルをスペインの銀行に送金させ、ジョナサンもうまく処分したワイアットは今スペインへ。もっとも、今の彼の名前はワイアット・ボーズではなく、ジェイミー・ゲッツ。アラン・ドロンがフィリップになりすましてパスポートを偽造した上、サインまで完璧に真似たように、ワイアットのジェイミーへのなりすましも完璧……？ そして、ホテルの部屋には何とあのSが。

ここからスペインを舞台として始まるデスマッチは、手に汗握るスリルとサスペンス模様となるはずだ。さあ、キャッシュで1000万ドルずつ、2つのケースに分けられた現ナマの行方は如何に？ そしてまた、Sとジョナサンの純愛(?)の行方は如何に？

2008(平成20)年10月8日記